

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(3ヶ月以上1年未満)

2017年 7月 14日

東京大学での所属学部・研究科等:	工学部	学年(プログラム開始時):	学部3
参加プログラム:	全学交換留学	派遣先大学:	国立台湾大学
卒業・修了後の就職(希望)先:			
	1. 研究職		2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
	3. 公務員		4. 非営利団体
	✓ 5. 民間企業(業界: )		6. 起業
	7. その他( )		

**派遣先大学の概要**

国立台湾大学は台湾でトップレベルの学生が集う国立大学である。戦前は旧帝国大学の一つであり、雰囲気は東京大学と似たものを共有している。

**留学した動機**

春休みと4年生のSセメスターで時間的に余裕が出来そうだったこと、そして存在感を増す中華圏での生活を体験してみたいという動機から

**留学の時期など**

①留学前の本学での修学状況:	2017年	学部3	年生の	S2	学期まで履修
②留学中の学籍:	留学				
③留学期間等:	2017年	2月~	2017年	6月	年時に出発
④留学後の授業履修:	2017年	学部4	年生の	A1	学期から履修開始
⑤就職活動の時期:	2016年	学部3	年生の	12月頃に	行った
⑥本学での単位数:	留学前の取得単位				単位
	留学先で取得し、本学で単位認定申請を行う単位				単位
	留学後の取得(予定)単位				単位
⑦入学・卒業/修了(予定)時期:	2014年	4月入学	2018年	3月卒業/修了	
⑧本学入学から卒業/修了までの期間:	4年		0ヶ月間		
⑨留学時期を決めた理由:					

春休みと4年生のSセメスターと複合して大きな時間が取れそうであったこと。またカリキュラム上余裕があったこと

**留学の準備**

①留学先大学への入学手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

事務局の方の指示に従っておけば何か困るということは発生しなかった。手続きに時間を要するもの(先生の推薦書など)は早めにめどをつけた方がよい。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

ビザはビジターのビザだった。何度も出入国できるものと一度しか出入国できないものがあるが、一次帰国などがあるので何度も出来るマルチビザをおすすめする。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)					
意外にすぐに受信できなかったり、検査結果が出るまで時間がかかる場合があったので、注意が必要だと思う。					
④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)					
少しややこしかったが、事務局の方の指示に従っておけば大丈夫だと思う。					
⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)					
4年のSセメスターに行われる領域プロジェクトという必修について、留学申請前に先生に相談し、遠隔実施可能との判断を仰いでから申請を行った。台湾でGoogleHangoutを利用してゼミに参加していた。					
⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)					
英語はIELTS6.5 中国語は留学決定後に駒場の中国語の先生にお願いして一学期間中国語の駒場の授業に混ぜて頂いていた。					
⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど					
台湾は大抵日本のものがあるので特にない。 日本以上にコンビニが密集している。					
<b>学習・研究について</b>					
①履修した授業科目のリスト(授業を履修した場合) ※そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったもの(又は行う予定のもの)に●をつけてください。					
授業科目名	単位数	単位認定の申請	授業科目名	単位数	単位認定の申請
General Chinese Language Course (II)	3				
Chinese Enhancing Course (II)	1				
Market and Economic Development of Taiwan (II)	2	●			
Operations Management	3	●			
Managing Strategic Alliances from a Global Perspective	3	●			
②留学中の学習・研究の概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等)					
中国語とその他経済経営関連の授業を半分ずつ取ろうと考えた。					
③1学期あたりの履修科目・単位数、週あたりの学習・研究時間(授業時間・授業以外の学習時間)など					
月曜日から木曜日まで授業を取り、金曜日は休みにしていた。 休日は課題などをこなしていた。					
④学習・研究面でのアドバイス					
授業は授業への参加を要求するものが多く、積極性が求められた。					
⑤語学面での苦勞・アドバイス等					
事前に少し勉強していたので伸びが大きかったと思う。 恥ずかしながら、話してみても間違えていたら友達に直してもらうくらいの心意気の方が伸びた					

<b>生活について</b>
①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)
大学近くの寮に住んでいた
②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)
台湾は基本的に蒸し暑い。大学の周りは賑やかな学生街で、地下鉄が通っている。 お金は新生銀行の口座からおろしていた
③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)
治安や健康上の問題は生じなかった。
④留学に要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)
・毎月の生活費とその内訳
家賃:25000円 食費:25000円 交通費:1500円
・留学に要した費用総額とその内訳
事前準備(保険、健康診断など):10万円 滞在費月約5万
⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)
東京大学短期超短期海外留学奨学金 月6万円
⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)
ボランティアの中国語サークル 長期休暇は台湾の別の都市へ旅行した。
<b>派遣先大学の環境について</b>
①留学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)
留学生に一人担当でお世話をしてくれる現地の大学生ボランティアがついていた。
②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)
大きな体育館や24時間空いている自習室など設備として不満はなかった。

留学と就職活動について	
①(就職活動を既に行った場合)留学が就職活動に与えた影響、メリット・デメリットなど	
<p>日系の会社を受けることは出来なかった。しかし、内定を持っていたので留学中に就職活動のために帰国する、などのようなことはしなくても良かった。</p>	
②(今後就職活動を行う場合)留学が就職に対する考え方に与えた影響	
<p></p>	
③留学中の就職活動への対策など(もしあれば)	
<p></p>	
④就職が決まっている場合は、差し支えない範囲で就職先をお知らせください	
	1. 研究職
	2. 専門職(法曹・医師・会計士等)(職名: )
	3. 公的機関(機関名: )
	4. 非営利団体(団体名又は分野: )
	<input checked="" type="checkbox"/> 5. 民間企業(企業名又は業界:コンサルティング )
	6. 起業(分野: )
	7. その他( )
留学を振り返って	
①留学の意義、留学を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感	
<p>技能的側面から言えば、中国語を学び理解できるようになったので収穫はあった。それ以上に今回の留学を通して、語学をはじめとして、もっと勉強していかなければならないとモチベーションを得た。</p>	
②留学後の予定	
<p>卒業論文と大学院の入試</p>	
③今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス	
<p>考えてから行動に移すことはハードルが高いですし、やることも多いですが、一旦始めてしまえばあっという間に物事は進んでいきました。行って後悔することはまずないので、最初に思い切って決めてみてください。</p>	
その他	
①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物	
<p></p>	
②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。	
<p></p>	

東京大学での所属学部・研究科等:	教養学部	学年(プログラム開始時):	学部3
参加プログラム:	全学交換留学	派遣先大学:	国立台湾大学
卒業・修了後の就職(希望)先:			
	1. 研究職		2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
	3. 公務員		4. 非営利団体
	✓ 5. 民間企業(業界: 未定)		6. 起業
	7. その他( )		

**派遣先大学の概要**

台湾のトップ校とされる総合大学で、前身は日本統治時代の1928年に創立された台北帝国大学。学生数は学部18,000人、大学院15,000人と東大よりも多い。キャンパスは台北の中心部に位置し、通称は台大(以下、台大と表記)。現地での所属学科は理学院地理環境資源学系(理学部地理環境資源学科)、学生数は学部が1学年当たり80人ほど。

**留学した動機**

大学入学時から漫然と留学に行きたいという考えがあったのに加えて、サークルなどを通して留学生や交換留学に行った先輩などを近くに見ていた中で交換留学に行く決心した。二外で学んだ中国語を実際に道具として使いたく、また趣味である自転車の盛んな地域である台湾を選んだ。また、旅的的好奇心の延長として日本を離れて1年間生活してみたいという気持ちもあった。

**留学の時期など**

①留学前の本学での修学状況:	2016年	学部3	年生の	S2	学期まで履修
②留学中の学籍:	留学				
③留学期間等:	2016年	9月~	2017年	7月	
	学部3	年時に出発			
④留学後の授業履修:	2017年	学部3	年生の	A1	学期から履修開始
⑤就職活動の時期:	2018年	学部3	年生の	2月頃に	行う予定
⑥本学での単位数:	留学前の取得単位				61単位
	留学先で取得し、本学で単位認定申請を行う単位				8単位
	留学後の取得(予定)単位				20単位
⑦入学・卒業/修了(予定)時期:	2014年	4月入学	2019年	3月卒業/修了	
⑧本学入学から卒業/修了までの期間:	5年		0ヶ月間		

**⑨留学時期を決めた理由:**

同期や先輩などが3年のAセメスターから行っている場合が多いのを見ていた程度で大きな理由はない。卒論と就活の関係から1年間交換留学に行く場合には、卒業を1年延ばすのはやむを得なかった。

**留学の準備**

**①留学先大学への入学手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)**

東大での審査や手続きを通過したのち、台大側とはインターネット上の申請フォームを通して必要な資料や書類を送付する。留学先での計画を1枚提出する必要があったが中国語・英語のどちらでも構わず、ほかのフォームに関しても中国語(繁体字)・英語を選ぶことができた。

**②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)**

1年の交換留学の場合は居留査証(ビザ)を申請する。日本語の情報も経済文化代表処(業務上大使館に相当)をはじめ問題なく手に入る。書類提出から最速で当日午後にはビザが発給されるものの、在学証明書、健康診断書類の不備で計4回も代表処へ通うことになってしまった。台湾向けの経験があるクリニックを受診した方が確実に書類を作成してもらえらると思う。

**③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)**

台湾のビザ及び派遣先大学の手続き上必要な健康診断及びワクチン接種(麻しん・風しん)

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)					
東大指定の留学保険(付帯海学)。					
⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)					
学科(学際科学科)及びコース主任(地理・空間コース)に留学許可願へのサイン記入を依頼したほか、留学前の夏休み期間に行われた学科の実習に関しては担当教官と日程の相談を行った。					
⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)					
中国語: HSK5級(学部1年次に取得) 英語: IELTS 7.0(学部1年次に取得)					
⑦日本から持参の方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど					
日系の店も多いため現地で調達できるものが多いが、値段は基本的に日本で買うよりも割高になる。湿度が高く大学寮の風通しも良くないため、革製品などカビやすいものは逆に持参しないことをおすすめする。逆に冬場は10℃程度まで冷え込むため、それなりの防寒着があった方がいい。 事前の準備で必要なのは何といっても語学。中国語(國語、普通話)ができるに越したことはない。					
学習・研究について					
①履修した授業科目のリスト(授業を履修した場合) ※そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったもの(又は行う予定のもの)に●をつけてください。					
授業科目名	単位数	単位認定の申請	授業科目名	単位数	単位認定の申請
人文地理学通論	2		台湾地理	3	●
城郷、区域と発展	3		人口問題と研究	2	
国際生華語(一)	3		従東亞的視角看近代日本	2	●
初級臺灣客語	2		室内五人制足球中級	1	
文化、社會與自然	3	●			
②留学中の学習・研究の概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等)					
専攻の人文地理を中心に履修する予定だったが、台大では自然地理が同一学科で開講されているため、特に縛りなく両方を履修した。授業は基本的にすべて中国語で、主に留学生向けに開講される英語の授業は取らなかった。3コマの授業ではそのうち2コマが授業、1コマが討論という形式が多く、討論では予習の指定参考書が前提となっていたため、語学のうち読み書き聞く話す全てを実際に運用するいい機会になった。 人文地理という専攻の特性から実際にフィールドワークに行くこともあり、特に「文化、社會與自然」ではある漁港近くの集落に10回ほど通い、現地のお年寄りの話を聞く機会を得たほか、学期末の成果としてドキュメンタリー動画を制作することを通して、見聞きした事柄をいかに表現するかという点について深く考えることができた。					
③1学期あたりの履修科目・単位数、週あたりの学習・研究時間(授業時間・授業以外の学習時間)など					
授業時間は基本的に1コマ50分の2ないし3コマでそれぞれ2、3単位として計算される。第1学期は語学クラスとその他2科目で計12コマ・8単位、第2学期は6科目で計14コマ・13単位だった。単位のキャップ制があり1学期当たりの最大単位数は25単位で、学科で知り合った友人は20単位弱が多かった印象。 予習では指定参考書の分量がそれなりにあったため、1科目当たり数時間を要することも多かった。					
④学習・研究面でのアドバイス					
授業は基本的にすべて中国語だったが、学術用語の大半は英語などからの翻訳の場合が多いので友人やインターネットに頼りながら対応させて覚えるようにしていた(参考: 國家教育研究院雙語詞彙、學術名詞暨辭書資訊網 <a href="http://terms.naer.edu.tw/links/">http://terms.naer.edu.tw/links/</a> )。また、授業の形式ではグループワークが多いため、他人に任せきりにしてしまうことも可能だったが、留学の中で最大の成果を得るためにも周りへの迷惑などは気にせず積極的に関わっていくことが重要だと感じた。					
⑤語学面での苦勞・アドバイス等					
正直に言って出発前の中国語の学習が不十分で第1学期は相当に苦勞した。台大への交換留学には語学の要件は設定されていないものの、東大での二外プラスα程度ではあらゆる面で足りなかった。会話や日常的な表現は生活していく中で慣れるものの、語彙に関しては予めできる限りインプットしておくべき。中国語の授業(国際生華語)だけではあまり進歩しないと思っていた方がいい。語学交換の相手を積極的に探すべきだった。					
生活について					
①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)					
水源宿舎の2人部屋、家賃は月4900元(約1.8万円)。キャンパスから若干離れた場所に位置し、民間企業が運営するBOTと呼ばれる方式の大学寮。ルームメイトは台湾人の院生だった。キャンパス内の台湾人メインの寮(交換留学生は選択不可)に比べると家賃が高く、留学生の割合が高い。インターネット上のフォームで申込を行った。食事については1階の共用部分に調理器具はあるものの多くの人は外食をしていた。交換留学生の場合、大学近くに親戚がいるような場合を除いて寮の部屋を大学に手配してもらった場合が多かったはず。					

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)
<p>高温多湿で日本の真夏に近い暑さが5月から10月にかけて続き、日中は外での活動意欲を削がれた。部屋の風通しが悪く、クローゼット内の一通りのものにカビが生えるほどだった。一方で冬場は10℃近くまで冷え込み、暖房があまりないため気温以上に寒さを感じた。</p> <p>大学周辺には食堂や夜市、雑貨店や本屋、ドラッグストアなど一通りのものが揃う。公共交通は日本に比べて圧倒的に安く、気軽に使えた。また市内の公共レンタサイクルのYouBikeが整備されており便利。台大学の学生は大抵自転車をかってキャンパス内を移動しており、交換留学生でも中古のものをかうなどしている人も少なくなかった。</p>
③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)
<p>治安面に関しては財布や貴重品を身から離さないなど最低限のことは気をつけていた程度。</p> <p>医療機関に行くことはなかったが、日本語の通じる医師がいる病院も少なくないようである。</p> <p>健康管理については水分を多めに摂ることに気を遣ったほか、生活習慣を乱さないため自転車の朝練を行っていた。</p>
④留学に要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)
・毎月の生活費とその内訳
<p>住居費(大学寮2人部屋) 1.8万円  食費(ほぼ全て外食) 2万円  旅行・趣味による出費など 3万円</p>
・留学に要した費用総額とその内訳
<p>往復航空券 8万円(LCC利用、うち受託手荷物が4万円程度)  生活費 7万円 × 10ヶ月  自転車購入費 15万円 ほか  計 90万円程度</p>
⑤奨学金(支給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)
<p>全学交換留学派遣用奨学金(The Fung Scholarships) 月額6万円</p>
⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)
<p>空き時間では平日・週末問わず以前からの趣味である自転車に乗っている時間が長かった。大学生だけでなく30～50代の幅広い世代の台湾人と自転車を通して知り合うことができ、貴重な経験となった。特に自転車店のコミュニティやイベントへの参加は現地での人脈を作るうえで有効だった。</p> <p>長期休暇では何回か泊りがけの自転車旅行に出かけたが、台湾の自然や風土に接するいい機会となったほか、大学の授業からの気分転換にもなった。</p>
派遣先大学の環境について
①留学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)
<p>受け入れボランティアの担当が1人いたが、実際に何かを手伝ってもらえる機会はあまり多くなかった。国際担当の部署をはじめ、分からない点があれば大学当局や、授業や履修に関することであれば知り合いに聞くことで解決したことがほとんどで、学生は総じて親切だったように思う。比較の対象がないため評価することは難しいが、特にサポートが不足しているとは思わなかった。</p>
②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)
<p>図書館の地下にある自習室が24時間開いていてレポート作成のときなどに重宝した。大学内の施設や寮にジムがあったが使う機会は多くなかった。大学内の寮に住む学生が多いため、食堂は充実しており値段も大学外に比べると安い。PCとプリンタ・スキャナは「計中」と呼ばれる施設で使えるほか、およそすべての場所でWi-Fiが使えるものの接続はあまり安定しない。キャンパスでは自転車での移動が主流のため、駐輪場が至る所に整備されている。</p>
留学と就職活動について
①(就職活動を既に行った場合)留学が就職活動に与えた影響、メリット・デメリットなど
②(今後就職活動を行う場合)留学が就職に対する考え方に与えた影響
<p>現地在住の日本人の話を聞く機会などを通して、新卒の段階では日本国内で就活を行うことに決めた。一方で社会背景が異なるとはいえ、日本とは違い比較的時期や方式が自由な台湾の就職や進路選択に触れることで、就活に関するプレッシャーは自分の中で少しは減ったかもしれない。</p>
③留学中の就職活動への対策など(もしあれば)
<p>特になし</p>

④就職が決まっている場合は、差し支えない範囲で就職先をお知らせください	
1. 研究職	
2. 専門職(法曹・医師・会計士等)(職名: )	
3. 公的機関(機関名: )	
4. 非営利団体(団体名又は分野: )	
5. 民間企業(企業名又は業界: )	
6. 起業(分野: )	
7. その他( )	
<b>留学を振り返って</b>	
①留学の意義、留学を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感	
<p>今回台湾へ留学した目的の一つはやはり中国語の習得にあったが、それをツールとして自分の専攻である人文地理について学問的な視野を広げることができたのは「留学」の一番の成果だったと思う。東大よりも学科の規模が大きいため多様な専門分野を持った教授がおり、自分の興味関心を相対化することができた。学問以外の面では、日本よりも周囲に頼れる人がいない状況からスタートした一方で、自力では限界があるため周囲に積極的に聞くなどして物事を解決する力は以前よりも身についたように思う。</p> <p>海外で長期間生活するのは初めてのことであったが、最初の2ヶ月くらいを過ぎればある程度慣性で過ごせるようになってしまい、食欲がなくなってしまうことは反省すべき点だったかもしれない。</p>	
②留学後の予定	
<p>帰国後の夏休みは短期のインターンと就活に向けた研究を始める以外は、今までの長期休暇と同じく旅行などをして過ごし、2017年のAセメスターからは東大での授業を受け、秋～冬から就活を本格的に開始する予定。</p>	
③今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス	
<p>まず留学全般について言えば、費用面などハードルは確かにある一方で、USTEPなどその機会は十分に用意されているので、肝心なのはとりあえず行ってみようという気持ちだと思います。ただ、本当に難しいのは留学を通して何をしたいのかという目標設定とそれを如何に実現させるかという点で、自分は10ヶ月の留学の中でそれを明確にできなかったために惰性で毎日を過ごすことが多かったのを後悔しています。</p> <p>台湾留学に関しては、東大から交換留学で行く人が少ないこともあり、この選択に関して迷いが出たこともありましたが、日本と地理的・文化的に近く、旅行で訪れる機会も多いところだとは思いますが、実際に10ヶ月を過ごす中で多くの友人・知り合いができ、旅行では見ることのできない社会の一面を感じることができ、一定の満足感を感じています。交換留学といえば英語圏や欧州に目が行きがちかと思いますが、選択肢の中から自分のやりたいことを考えたうえで留学先をどこにするかを考えてほしいです。</p>	
<b>その他</b>	
①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物	
<p>語学留学を中心に台湾(特に台北)への留学について日本語で書かれたブログなどが沢山あり(英語ソースよりもむしろ多い)適宜参照していたが、情報の新しさや正確さの面から不明な点があれば台大の国際担当の部署や経済文化代表処に直接問い合わせるべき。</p>	
②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。	
<p>自転車イベントに参加した様子</p>	

